

加法師の守り神 教王院



- 1560年に開かれた
- 館林城の家来の墓がある

本堂。この中に秘仏「弘法の
爪引き地蔵」（子育て地蔵）と
「不動明王の掛け軸」があるら
しい。

① 弘法の爪引き地蔵

「弘法大師が諸国をめぐる修行
の折、道ばたの石を爪でひっか
いて作った地蔵である」と
館林市教育委員会発行の「さ
やの民俗」にその名の由来が書か
れている。33年に一度しか見る
ことができないという秘仏であ
る。

ぜひ見たいものです。それがなぜ「子育て地蔵」とよばれているのかも興味深い
ですね。



② 不動明王の掛け軸（市指定重要文化財）

本堂に展示されていきました。南北朝から室町時代に描かれたものだという
ので、このお寺ができる前から存在していた掛け軸です。本堂にまつられてい
る不動明王像と掛け軸の不動明王を何度も見比べましたが、いずれも迫力の
ある表情が見て取れました。市の第一資料館にもあるということなので、こ
ちらも拝見したいと思います。

ところで、この掛け軸、売りに出されてしまったけれど、流れ流れて教王院

に帰^{かえ}ってきたというエピソードがあります。この掛け軸^{かけじく}を買^かった人^{ひと}には、
夜^よな夜^よな夢^{ゆめ}枕^{まくら}に不動明王^{ふどうみょうおう}が立^{たち}ち、「加^か法^{ぽうし}師^しに帰^{かえ}りたい」というので、手放^{てばな}して
しまっ^なったというお話です。



←山門脇^{さんもんわき}に立^たつ青面金剛^{しょうめんこんごうぞう}像^{ぞう}。個人^{こじん}的に好^すき
な仏^{ぶつ}像^{ぞう}です。恐^{おそ}ろしい顔^{かお}、それぞれに武器^{ぶき}
を持^もつ6本の腕^{ぼんうで}、鬼^{おに}を踏^ふんづけて^{づけて}いる姿^{すがた}。病魔^{びやうま}
と悪^{あく}霊^{りよう}を追^おい払^はう守護^{しゆご}神^{しん}です。

山門^{さんもん}をくぐり参道^{さんどう}を進^{すす}むと、なん
と穏^{おだ}やかな顔^{かお}の地蔵^{じぞう}様^{さま}。「宝永^{ほうえい}」
と書^かかれていた^かので、1700
年^{ねん}代^{だい}はじめの頃^{ころ}に作^{つく}ら^られた仏^{ぶつ}像^{ぞう}で
す。

